



アイヤーム・アハリー
Ayyam Ahli / Days of "Ahli"
2021年5月20日

緊急号

アハリー・アラブ病院を支援する会 共同代表 村山盛忠・藤田 進
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18 キリスト教事業所連帯合同労働組合気付 MAIL : ayyam_ahli@yahoo.co.jp

アハリー・アラブ病院を支援する会ニュース・レター

アハリー・アラブ病院へ緊急支援をお願いします

ガザにあるアハリー・アラブ病院は聖公会エルサレム管区によって運営されている病院です。わたしたちは1991年から病院を支援しています。死者も多数出るとの激しい武力攻撃でガザに住む多くのパレスチナの人びとが負傷しています。アハリー病院は今、このときも、休まず怪我人を救助し、手当しています。こういう状況ですから連絡も取れませんが、連帯の証を届けなければなりません。わたしたちは常にパレスチナの人びとと共にいます。

パレスチナの様子をお届けします

ALJAZEERA アルジャジーラ 2021年5月16日

<https://www.aljazeera.com/news/2021/5/16/victims-of-aggression-gaza-hospital-overwhelmed-with-wounded>

武力攻撃による負傷者であふれかえるガザの病院

'Victims of aggression': Gaza hospital overwhelmed with wounded

イスラエルの苛烈な空爆で多数のパレスチナ人が死傷した一夜が明けると、ガザ最大の病院で働く医療従事者はその負傷者の数に圧倒された。

ガザ市にあるシファー病院のシャイマ・アフメド・クワイデル看護師(23)は、手足切断を含む重傷者が到着した5月16日の惨状をこう語る。「こんな光景を見たのは生まれて初めてです。病院のベッドの上に、バラバラになった身体の部分が集められていました。見るに堪えない光景でした」。瓦礫に埋まった人々の救出が困難をきわめるなか、ガザ地区の医療の中心であるシファー病院に通じる主要道路も爆撃された。負傷者の多くは、救出されても病院にたどりつくことができず、亡くなった。

ガザ保健省のミドハト・アッバース医師によれば、最初の7日間でパレスチナ人負傷者は1200人に達し、約半数が女性と子どもだった。アッバース医師は、イスラエルが意図的に医療施設を狙い、シファー病院の周辺道路を空爆していると非難する。「イスラエルの主な標的は民間人です。民間人がこの武力攻撃の被害者なのです。ネタニヤフ首相(収賄容疑で裁判中)は投獄を免れるために、パレスチナ人の子どもを殺すことに決めたのです」。

ガザの医療関係者によると、5月16日の空爆によるパ



■日曜日にイスラエルがガザで行った空爆の瓦礫の中、被害者を手当する救急隊員



■イスラエルによるガザの空爆で殺された、アル・ハジジ家の子どもの遺体を担ぐ男性。5月15日に行われた葬儀にて。

レスチナ人死者は子ども 13 人を含む 33 人。この時点でガザの死者は 181 人、子どもは 52 人だ。イスラエル内の死者は 10 人、うち子どもは 2 人と報じられている。空爆に関するイスラエル軍の公式コメントは出ていない。

逼迫する医療

アッバース医師によると、患者の急増に応じて待合室にもベッドが持ち込まれた。ガザの病院はそれだけでなくとも 15 年にわたる封鎖とコロナのパンデミックのせいで、薬や医療器具が不足している。「患者をエジプトに搬送できるのですが。ガザでは収容できません」とアッバース医師はアルジャジーラに語った。

アマル・バダウィ看護師は負傷者の急増について、「病院は患者とその家族であふれています。この混雑の中で必要な処置をおこなうことは困難です。多数の負傷者や死者が、ひきもきらずに到着しています」と語った。

ガザ保健省によると、シファー病院のアイマン・アブー・アウフ医師も空爆で亡くなった。同病院の救急医ファハド・ハッダードは、搬送された死者のほとんどに目立った外傷がなく、このことは建物の倒壊で生き埋めになったこと



■自宅のあった場所に座り込むパレスチナ人の一家。家は、5月17日の月曜日早朝、イスラエルによるガザの空爆で破壊された。

を意味すると語った。

国境関係者2名がロイターに語ったところによると、エジプトは16日、予定より1日早くガザとの国境を開き、学生や負傷者らの通行を許可した。国境はかねてからラマダーン後の祝祭イードル・フィトルのために閉鎖されており、再開は17日の予定だった。医療関係者によると、エジプトは、エジプトの病院に負傷者を搬送するための救急車16台をガザに送り込んだ。5月16日朝には95人を乗せたバスがエジプトに到着している。

東エルサレム「立ち退き」問題で激化する衝突 酒井啓子（日本中東学会）

今回の衝突の発端は

イスラエル併合下にある東エルサレムで、5月初めから大規模な衝突が続いている。5月7日、ラマダン月最後の金曜礼拝が実施されたアルアクサー・モスクで、イスラエル警察とパレスチナ住民が衝突、パレスチナ人側に200人以上の負傷者が出た。9日は預言者ムハンマドに最初の啓示が下された「みいつの夜」に当たっていたが、今年はイスラエルの「東エルサレム併合記念日」と重なり、これを祝うユダヤ人と反発するパレスチナ人の間で衝突が激化、イスラーム教徒にとっての聖地であるアルアクサー・モスク内にイスラエル警察が踏み込んだ。一方で、ハマースがガザでミサイル攻撃を再開するなど、対立は拡大、現在に至っている。

東エルサレムを中心とするパレスチナ人とユダヤ人の衝突は、4月なかば、ラマダン月(2021年は日本時間で4月13日～5月12日)が始まるころから深刻化していた。イスラエル政府は、ラマダン月に東エルサレムでイスラーム教徒が大規模集会を開くことを禁じる命令を出した。この決定はその後撤回されたが、神と向かい合い、信仰心を深め、イスラーム教徒同士の連帯意識を強めるラマダン月だからこそその儀式や集まりの機会を、真っ向から否定する決定であり、イスラーム教徒の反感を煽った。そうしたなかで4月22日には、ユダヤ人の右翼団体「レハヴァ」がエルサレムでデモを行い、「アラブ人に死を」と叫んでパレスチナ人を挑発した。Newsweek ニューズウィーク(5/12)「中東徒然日記」より抜粋

<https://www.newsweekjapan.jp/sakai/2021/05/post-21.php> (Newsweekのサイトで全文が読めます)

郵便振替：00150-7-601525
アハリー・アラブ病院を支援する会

←こちらの口座にお振り込みください。領収書が必要な方は、その旨を通信欄にご記入ください。